

# スウェーデンにおける子供の電話相談"BRIS"について

○草野篤子(信州大学)

<目的> スウェーデンは、高齢者福祉、障害者福祉が充実し、また女性の社会進出や男女平等が進んだ国であるといわれている。また子供の生活についても、子供の権利を守る立場で家族政策が重要なものとして位置づけられている。社会や家庭生活における子供の権利を保障するための民間援助組織の一つである子供電話相談"BRIS"は、すでに創立28周年をむかえている。電話の内容、年齢層、性差、家族構成、問題解決のための援助方法等、"BRIS"の電話相談について明確にすることによって、スウェーデンの子供が直面している問題点を明らかにすることを目的とする。

<方法> 子供電話相談"BRIS"は1971年に発足し、すでに28年の実績を持つ非政治的な全国組織である。"BRIS"から出されているBRIS-Rapporten1995(BRIS会話報告1995年度)を初めとしてBRISの会長ボディール・ロングベルグ(Bodil Långberg)女史との2度にわたるインタビュー調査を基にしてスウェーデンの子供や家族が抱える問題を解析する。

<結果> 1995年には、子供による電話相談は、12,189件でありこれは1994年より23%の増加であった。BRISには、深刻な問題を抱えた子供が電話をかけてくる。その原因は、1つには子供達の家族の経済的環境が以前に比べて悪化し、親が将来への見通しの不安から精神的に不安定となり子供に影響を与えていることである。他の原因は、BRISへ電話することが子供たちにより理解されたことである。電話をしてきた子供の10人に7人は女子であり、平均年齢は14歳であった。その内容の多くは、困難な問題が多く、13.7%は「交友関係と性」、12%は「いじめ」、11.9%は家庭内問題であり、その内で「暴行」が10.4%、9.9%が「性的暴力」であった。